

コスモス 5月号

第68巻 第5号

◆宮柁ニカレンダ―(14) 五月の歌

行春ゆくはるの銀座の雨に来て佇てり韃鞨人セミヨ―

ンのごときおもひぞ

歌集『晩夏』

昭和二十四年五月十四日、作者は午前中横浜で自由労働者街を見て午後は銀座で梅原竜三郎・安井會太郎の作品展を見た。会場では洋服に地下足袋の年老いた斎藤茂吉の姿に出会ったりもした。

掲出歌はそのあとのことかモチーフとなつて詠まれている。「私が出た銀座は雨となつてあて」「洋品店の張出した日光遮蔽テントの下に雨を避け、店角の柱に凭れてしばらく茫然としてゐた」。自分が韃鞨人セミヨ―ンでもあるかという思いはこのような雰囲気の中から生まれたのであろう。

(岡崎 康行)